

**LAGUNA RESEARCH**

**Presents**

STOCK TRADING BOOKLET

# リバウンド投資法

1回1回のトレードの結果がもつランダムな性格ではなく、自分が正しいことをやっているかどうかに関心を当てなさい

タートルズ創設者

リチャード・デニス

# Introduction

Chapter1 リバウンド

Chapter2 ボリンジャーバンド

Chapter3 オシレーター

Chapter4 組み合わせ

Chapter5 エントリー&エグジット

Chapter6 ストップロス

Chapter7 最後に

巻末付録 インジケーターの算出方法と解説

免責事項

# Intoduction

このブックレットは、株式トレードにおけるリバウンド投資のテクニックを、およそ30分で習得していただくことができます。

リバウンド投資法とは、株価が底値で反発するところを狙ってトレードする投資方法です。

これまで株を高値で買ってしまふことが多かった方や、タイミングがうまく掴めなかった方に大変有効なテクニックです。

株式トレードで利益を得るには、  
自分が買った価格よりも高く売却  
しなければいけません。

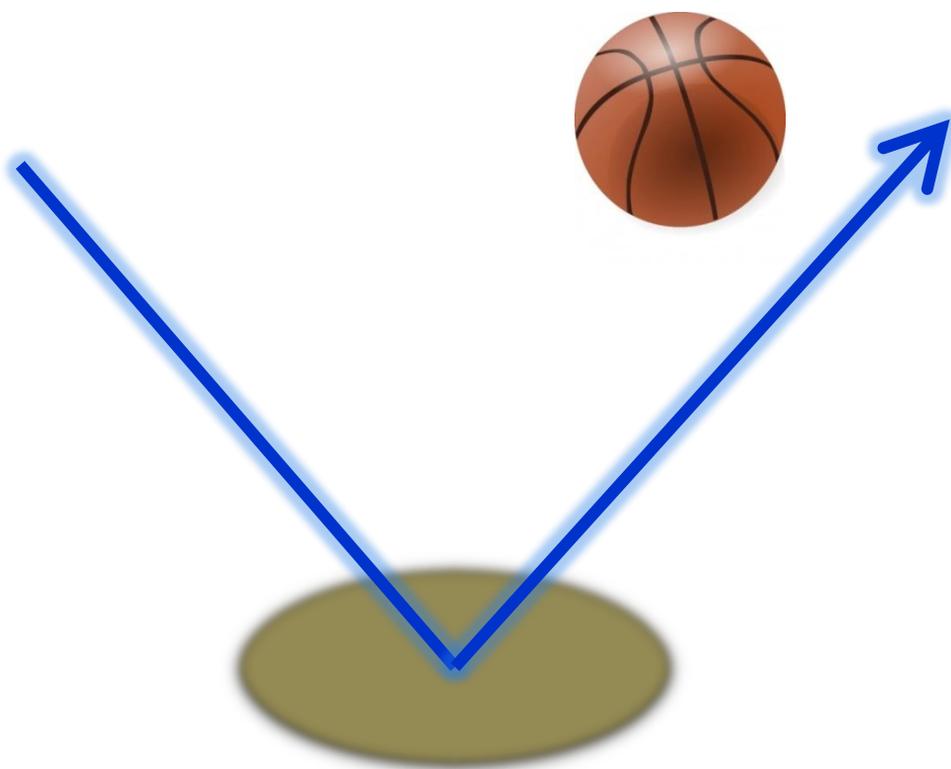
リバウンド投資法は、それを実現  
する方法の1つです。

このブックレットをご覧いただき、  
皆様の株式投資に、少しでもお役  
立ていただけることを、心から願っ  
ております。

Chapter1

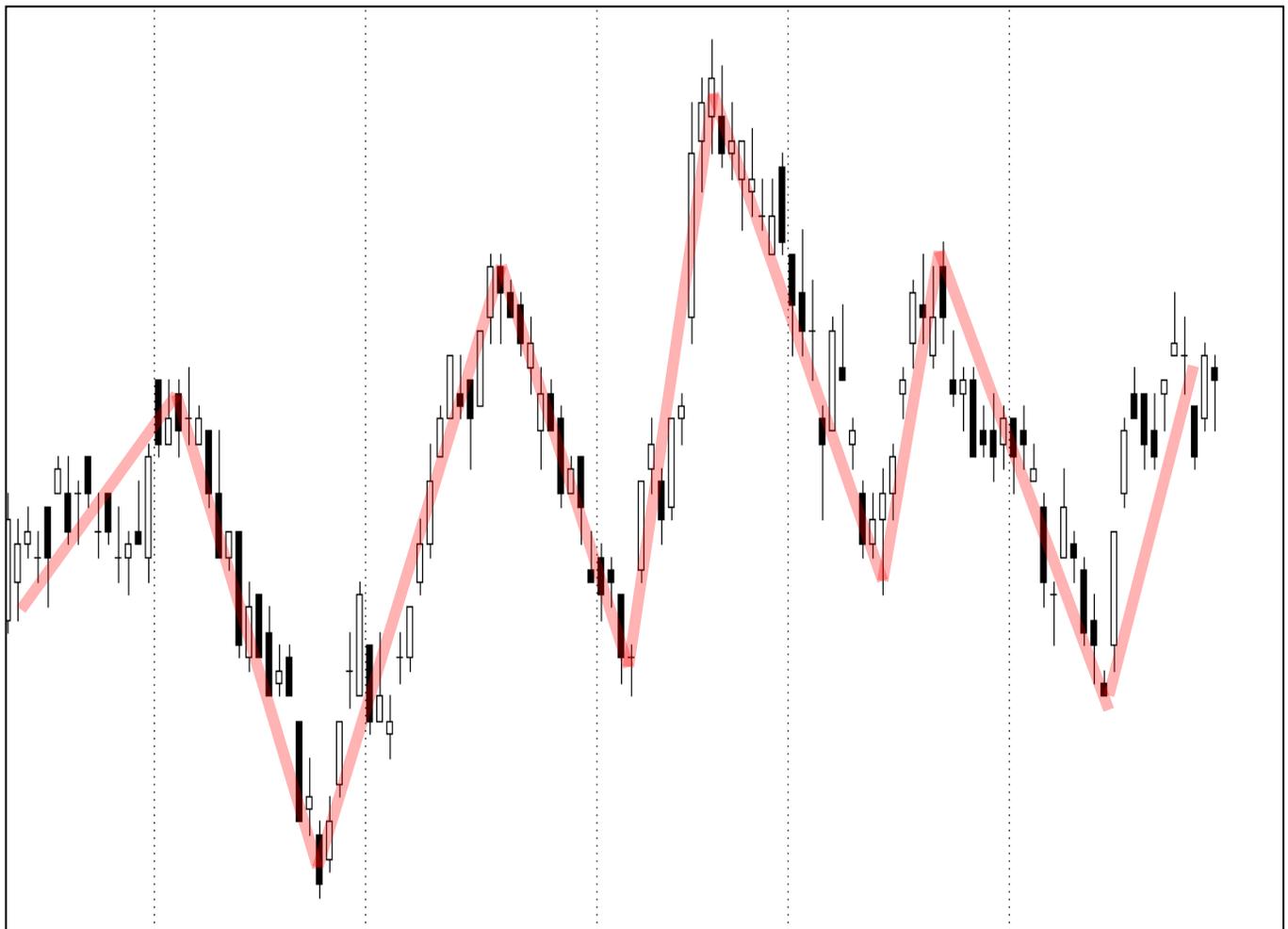
リバウンド

リバウンドとは、ボールを床に投げつけると跳ね返るように、株価の下落が続くと反発する動きのことをいいます。



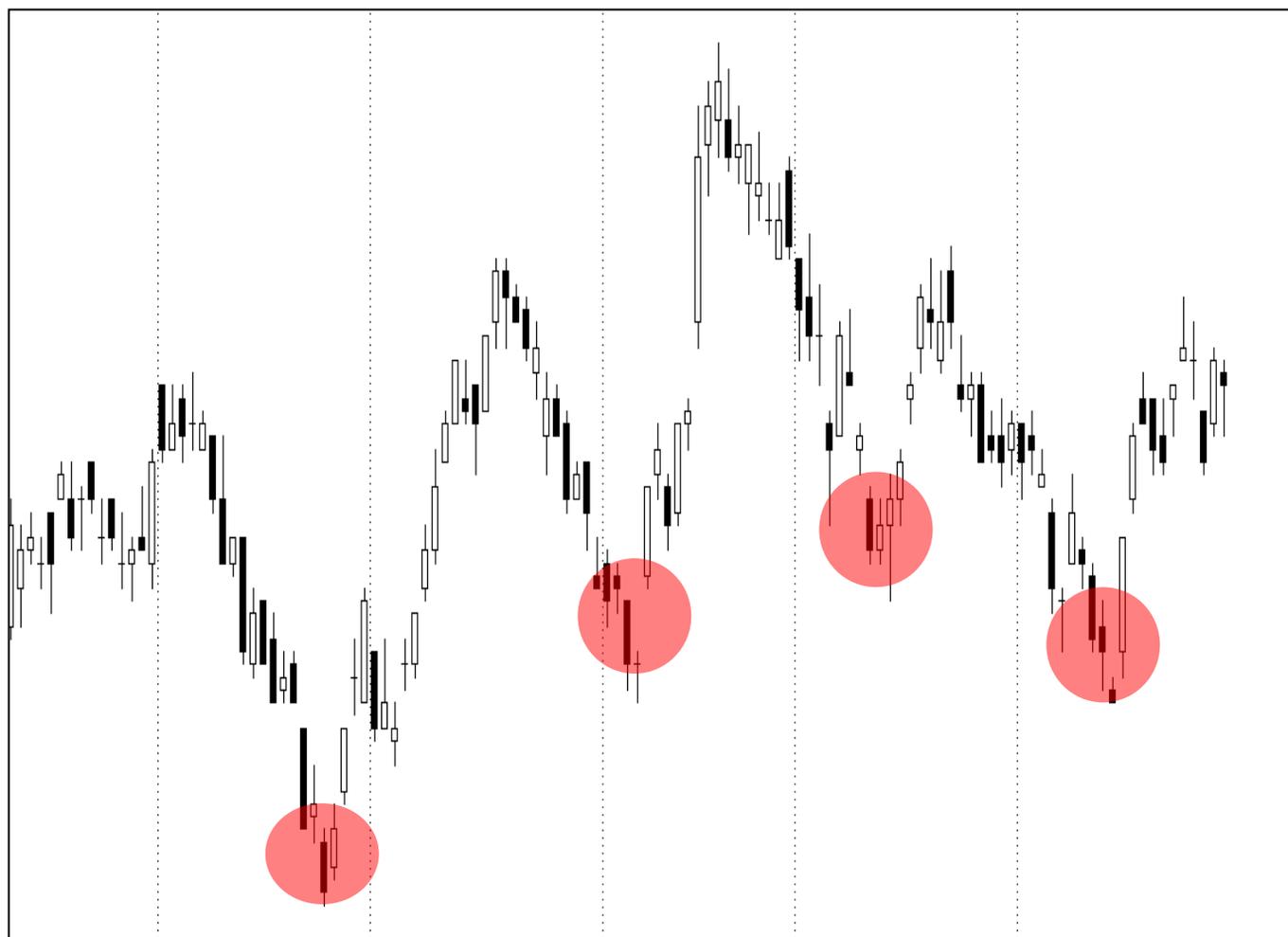
株価の動きは、上昇と下落の上下運動の組み合わせです。

上昇しすぎた株価はいつかは下落し、また下落しすぎた株価は反発する場面が訪れます。



リバウンド投資法では、株価が大幅に売られ過ぎた株だけを狙います。

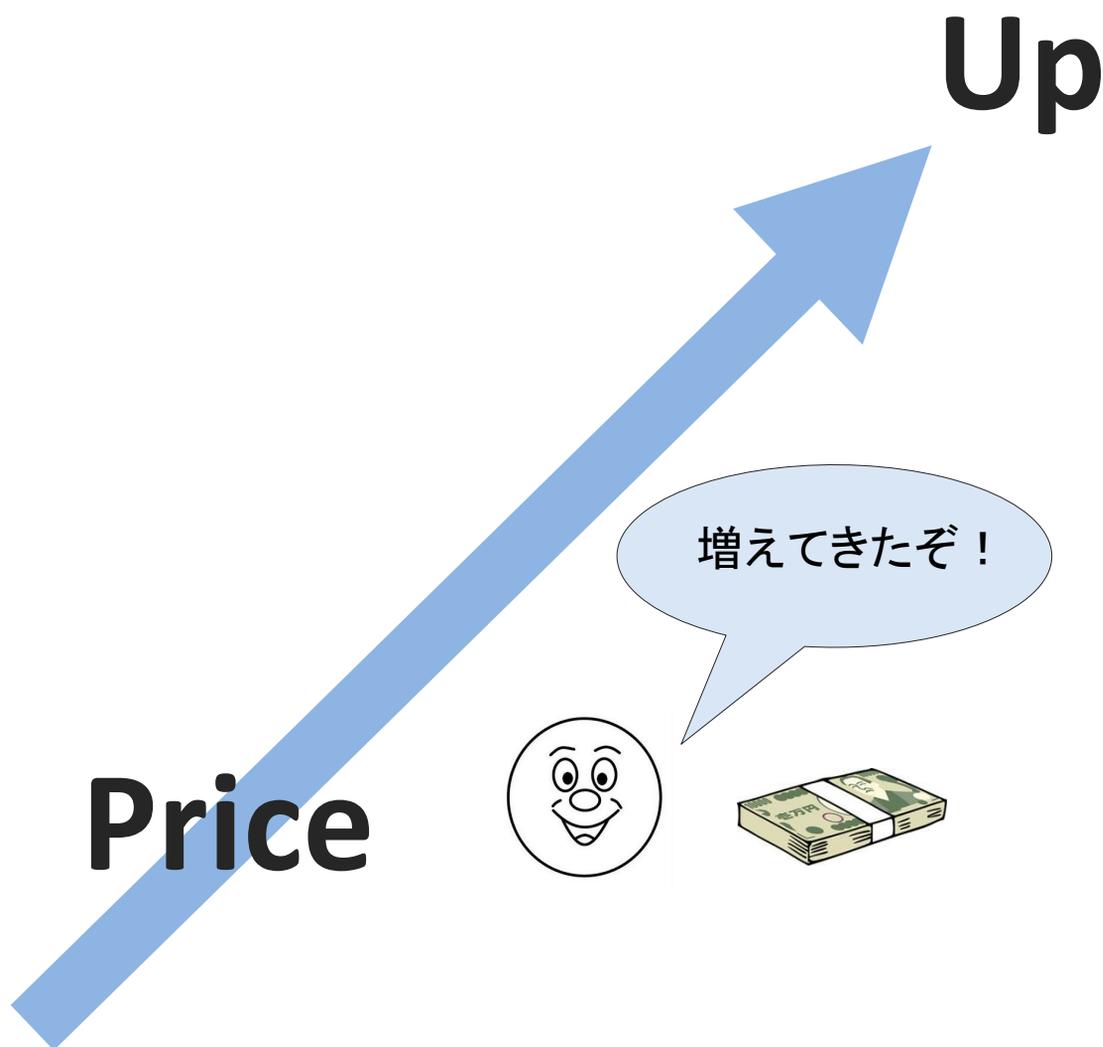
つまり、失敗する原因である高値掴みのリスクが無くなるのです。



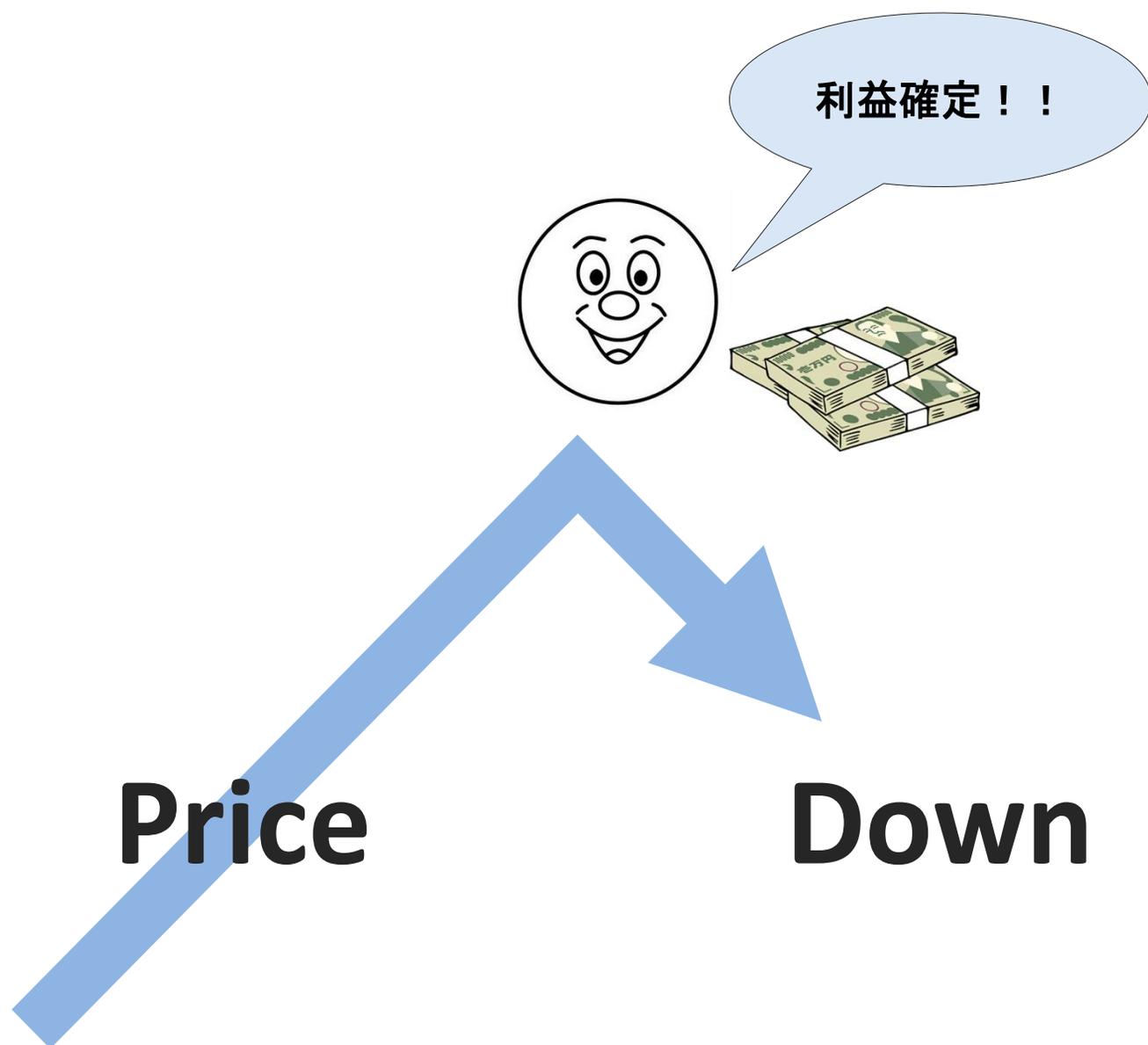
株価がリバウンドする要因として、投資家の心理が大きく影響しています。

なぜ株は下落し、そして反発するのか。その投資行動を見てみましょう。

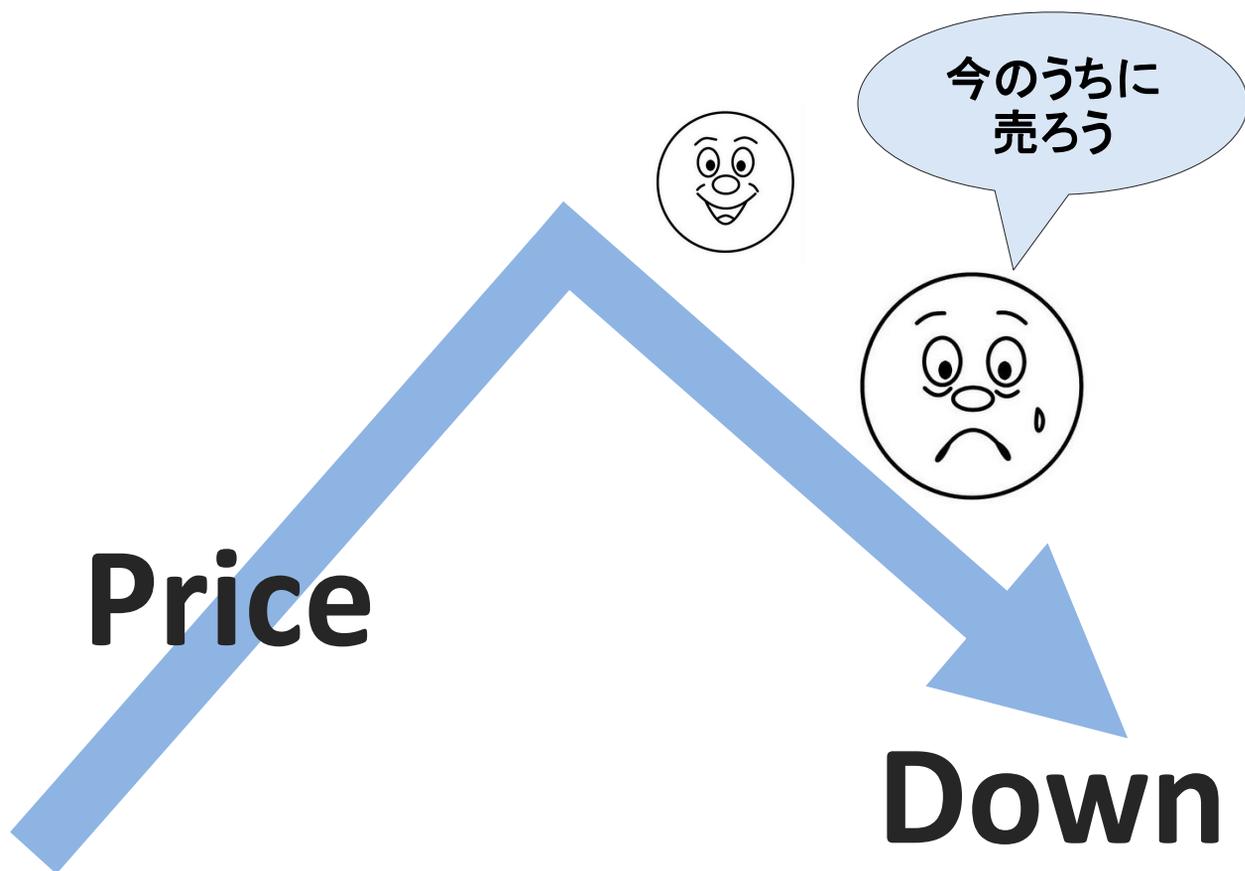
株価が上昇し始めると、その銘柄を保有しているトレーダーの利益が増えていきます。そして、その上昇が続く限り、利益は増加し続けます。



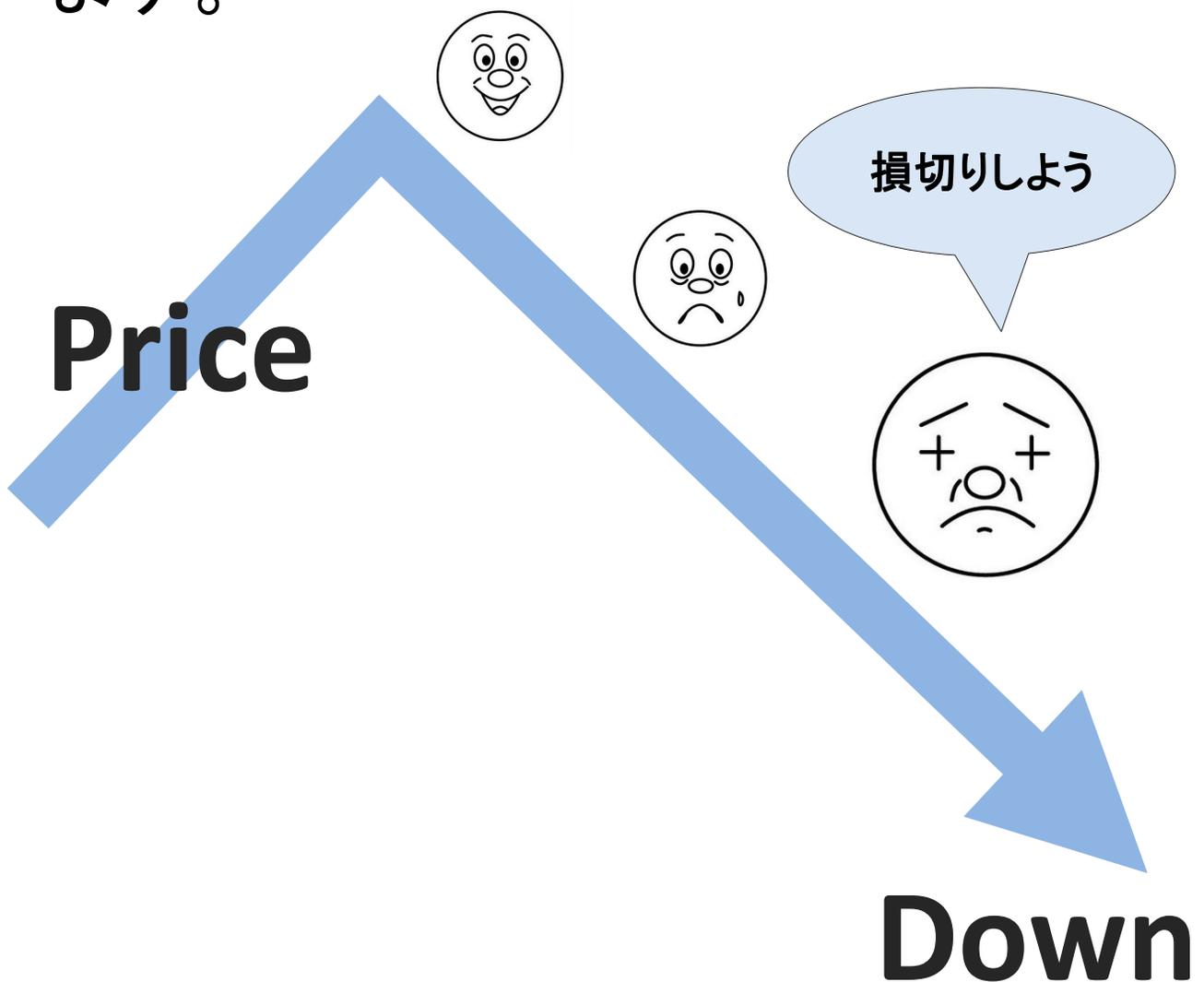
しかし、株価がある一定まで上昇すると、利益確定する売り注文が増加します。そして株価が下落しはじめます。



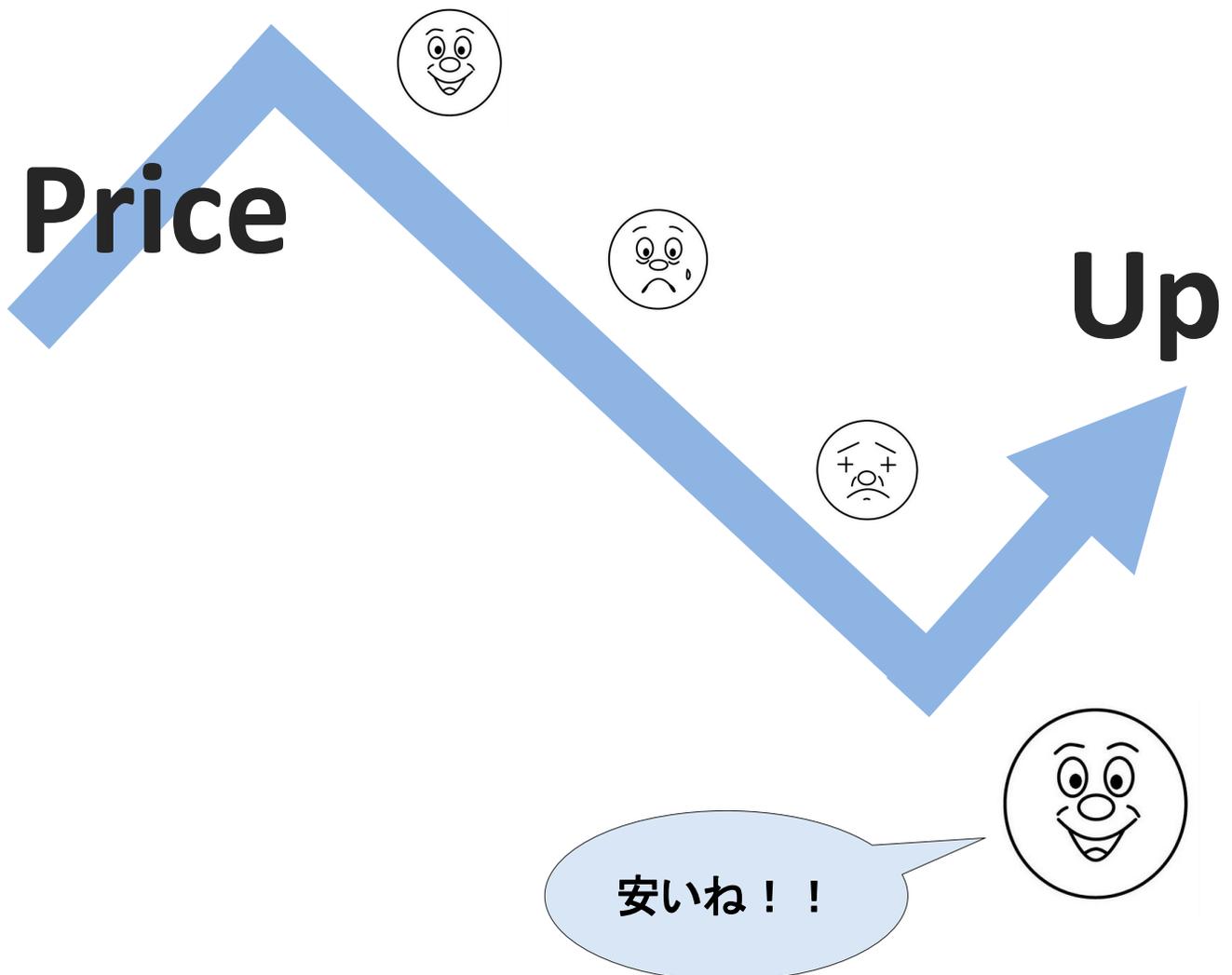
続いて、株価の下落を見た投資家が、損をしないために売っておこうという売り注文が入ります。これがさらに株価を下落させます。



最後に、買値よりも株価が下回り、損失を抱えた投資家が投げ売りをします。損に耐えきれない投資家がいなくなるまでこの下落が続きます。



この3段階の下落によって、売られ過ぎた株価は、異常な割安状態になります。これに気がついた投資家の買い注文が増えることで、株価がリバウンドします。



このように、株価が売られ過ぎてリバウンドするのを、待ち構えて投資する、これがリバウンド投資法です。

しかし、ただ株価を眺めているだけでは、リバウンドするタイミングはわかりません。

そこでテクニカル分析による判断が必要となるのです。

株価の底値を判定するために、次の4つのテクニカルインジケーターを使います。

ボリンジャーバンド

RSI

ストキャスティクス

移動平均乖離率

これら4つのインジケーターは、多くの証券会社のツールで見ることができます。

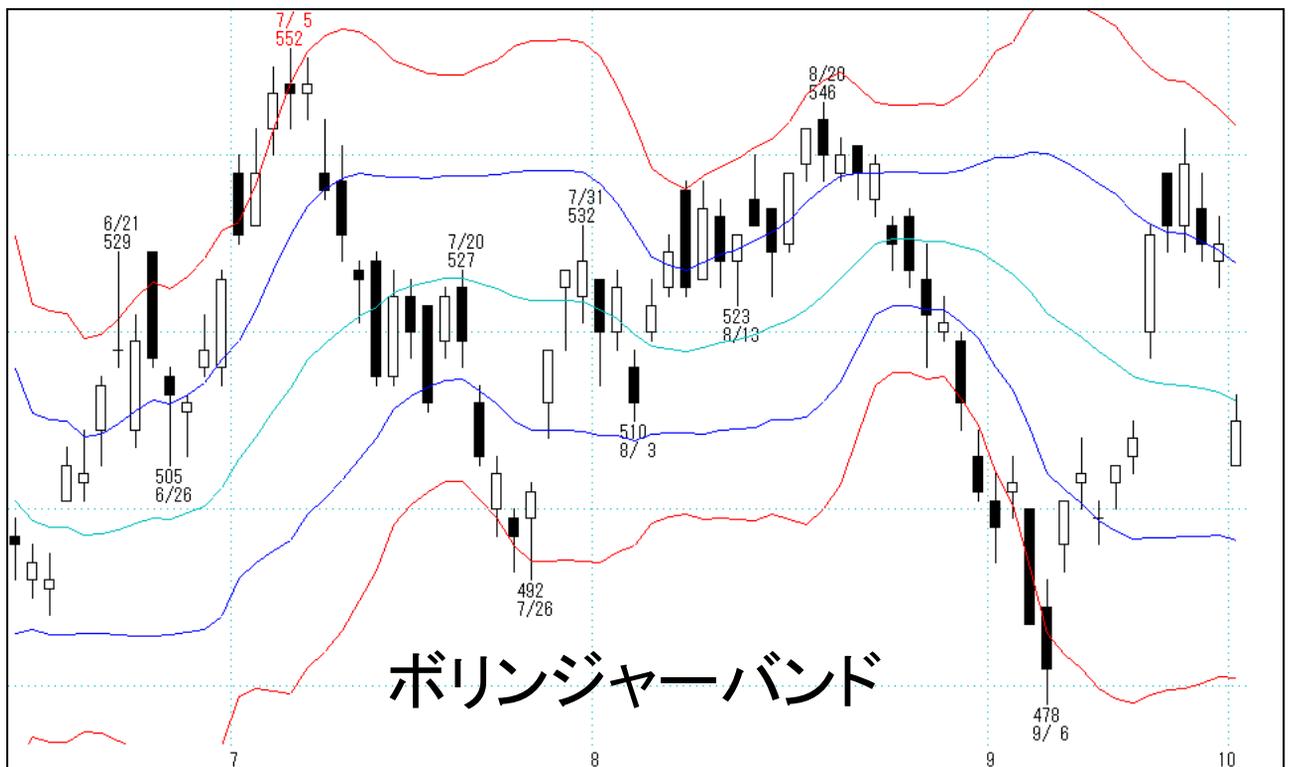
誰もが見られるポピュラーなテクニカル分析であっても、使い方次第で、強力な武器となります。

まずは、各インジケーターのイメージを掴んで下さい。

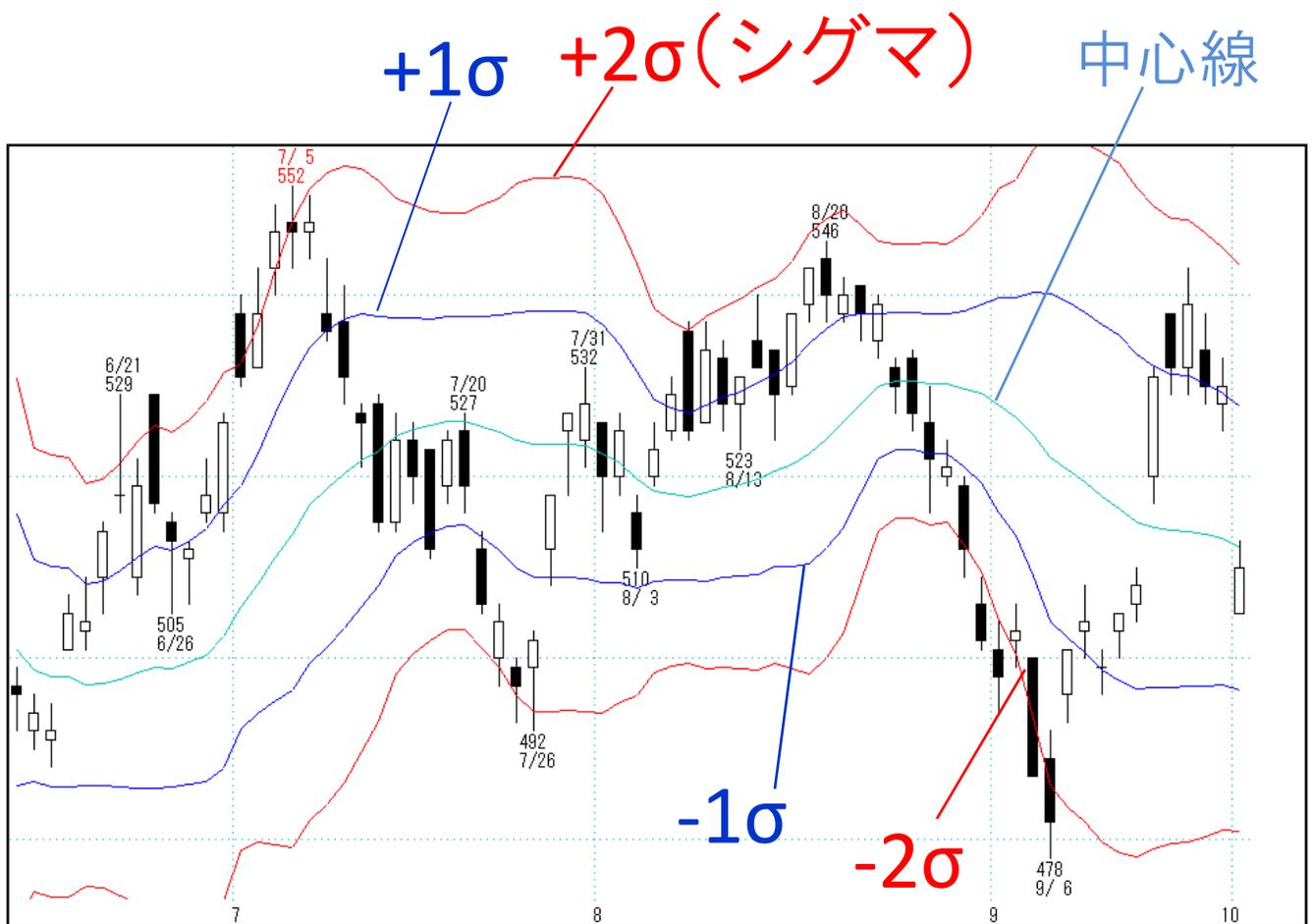
## Chapter2

# ボリンジャーバンド

ボリンジャーバンドは5本のライン  
と株価の位置によって、リバウンド  
しやすい水準にあるのかがわかり  
ます。

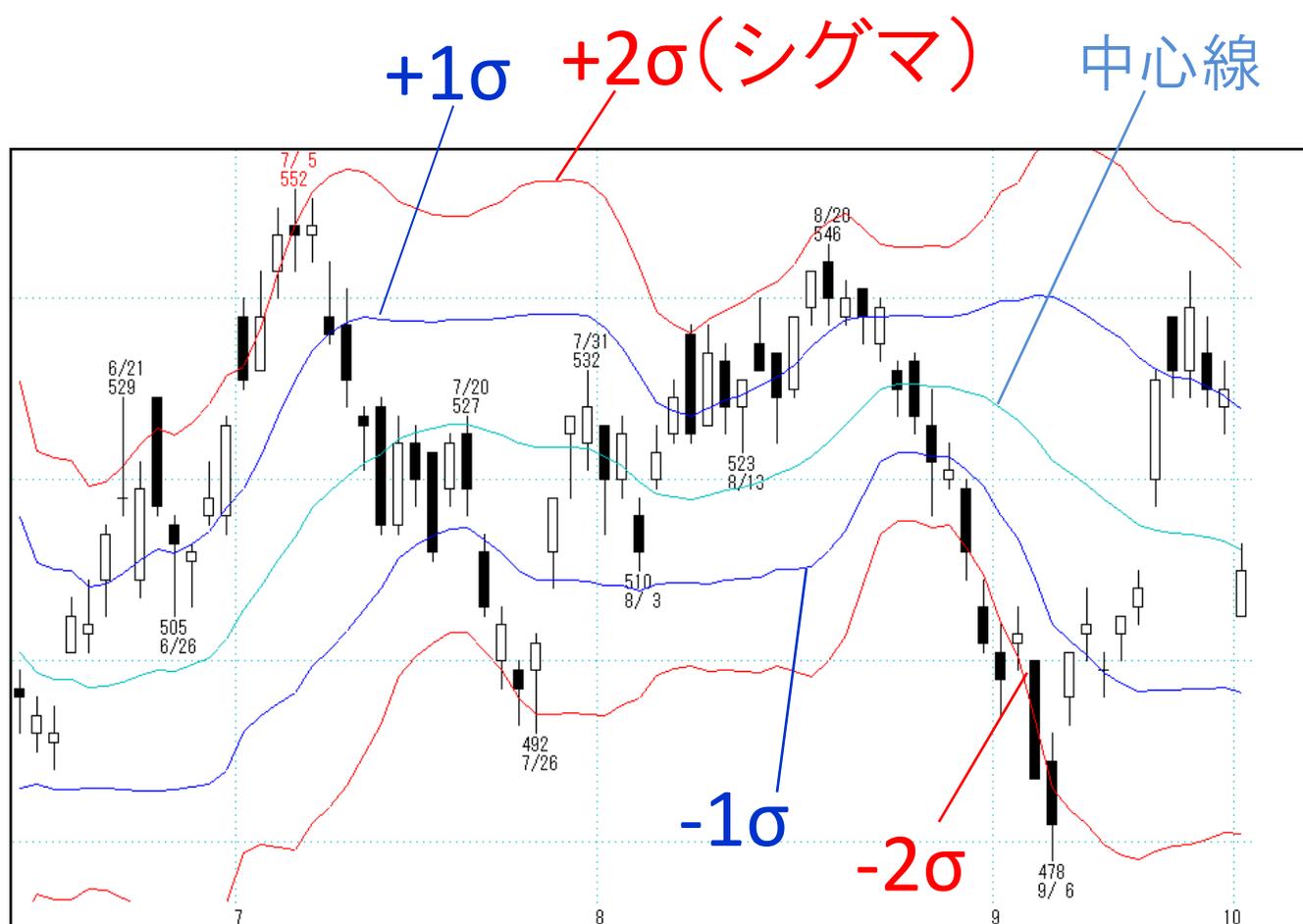


中心線を基準に上下に2本の線が描かれており、以下のように呼ばれています。



※中心線と±2σの3本の場合もあります。

またパラメータ(設定日数)は一般的に20日が使われます。これは休場日を除いた1ヶ月の取引日を意味しています。



20日ボリンジャーバンド

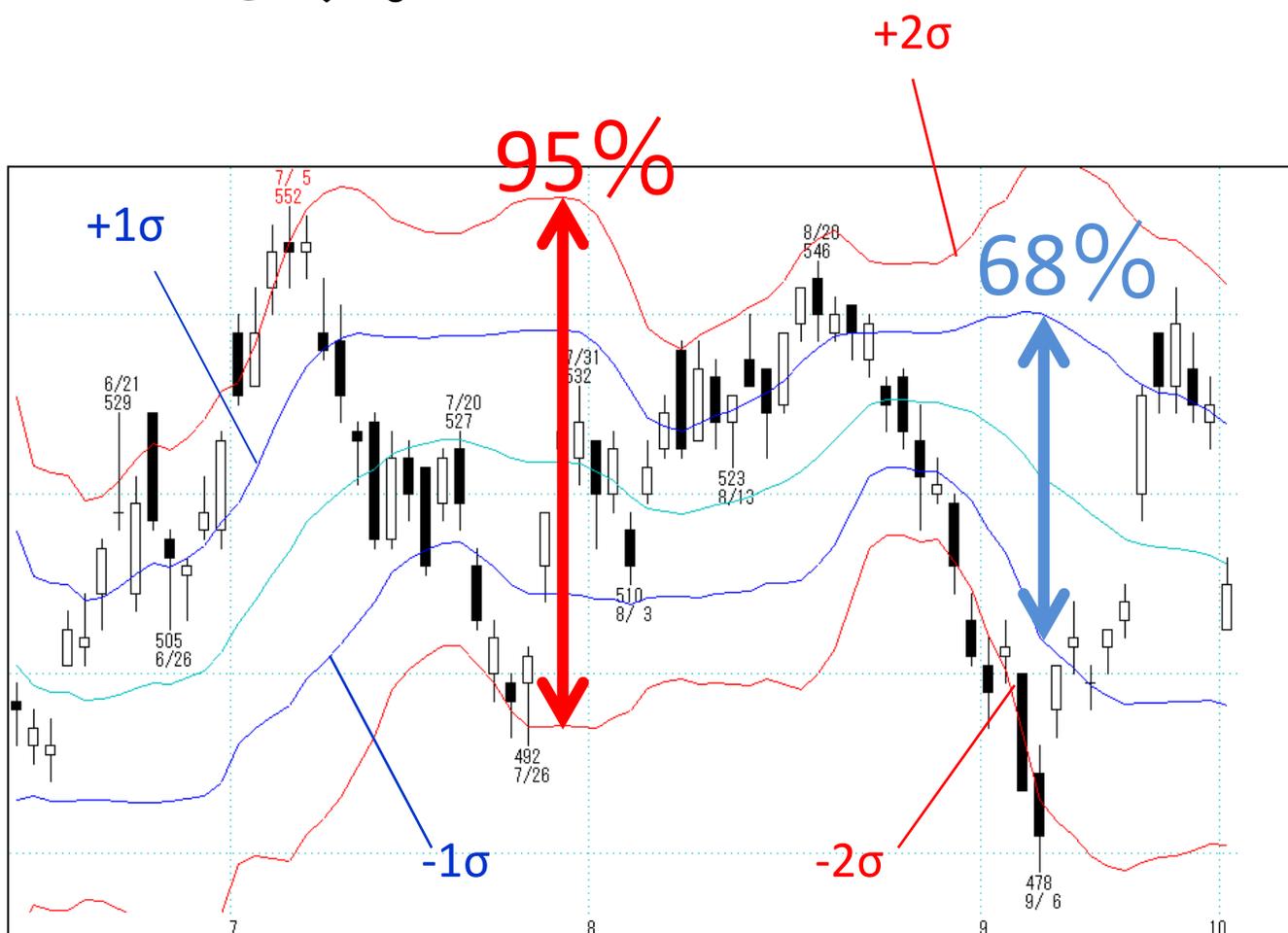
ボリンジャーバンドは、各バンドには収まる**確率**が決まっています。

その確率によって、バンドの外側にはみ出した株価は、内側に引き寄せられるように反発します。

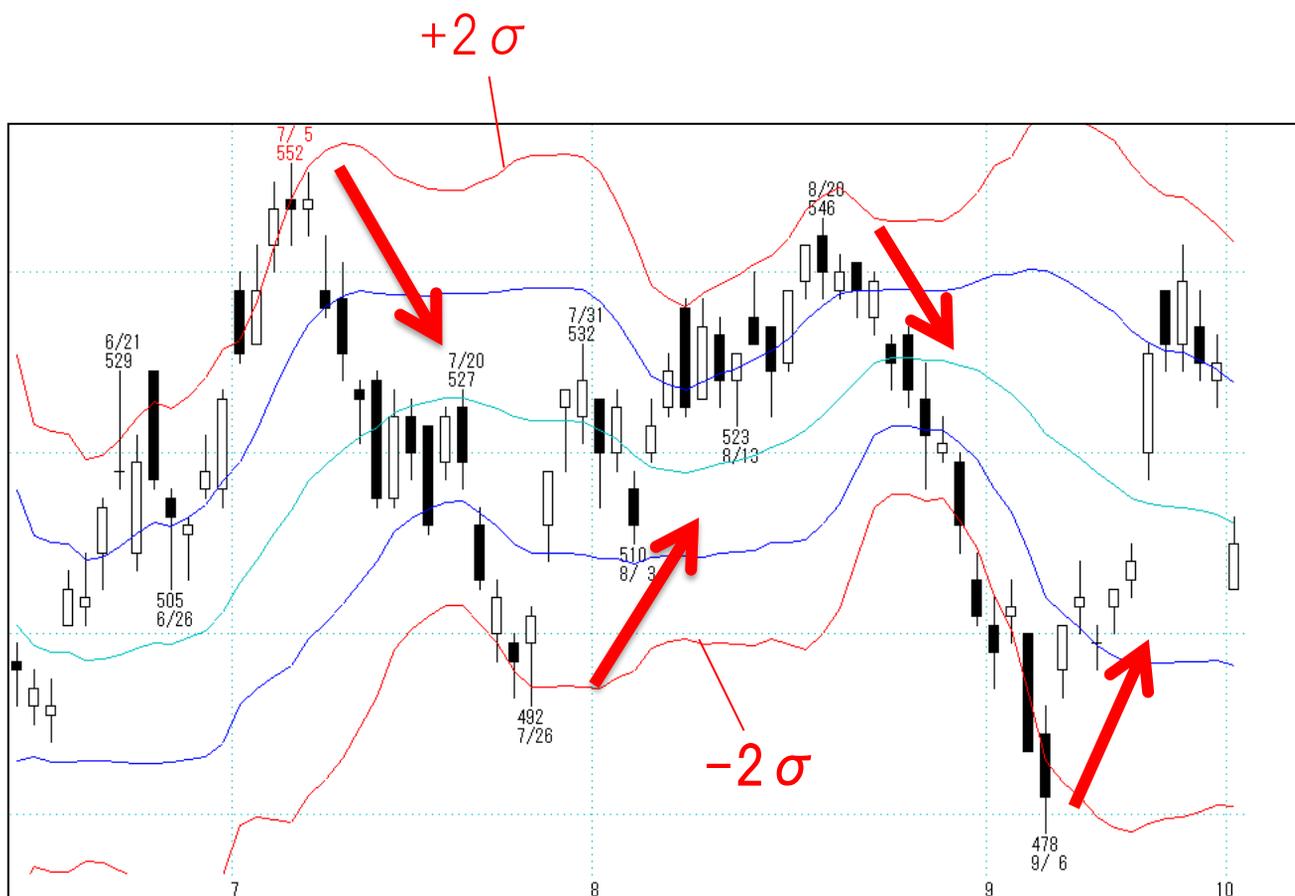
+2 $\sigma$  ~ -2 $\sigma$  の間に **95%** の株価が収まる

+1 $\sigma$  ~ -1 $\sigma$  の間に **68%** の株価が収まる

外側の $\pm 2\sigma$ をはみ出した株価は  
95%の確率でその内側に戻り、  
 $\pm 1\sigma$ をはみ出した株価は68%の  
確率で株価が内側に戻るとされ  
ています。



ボリンジャーバンドでは $-2\sigma$ に近づくほど内側に引き寄せられるように株価が反発します。これを利用すればリバウンドしやすい株価かどうかを判断できます。



しかしボリンジャーバンドだけでは、それほど精度が高くありません。

バンドの収まる確率とは、過去にその間に株価が収まっていた割合を示しているにすぎず、必ずその確率で反発するというものではないのです。

そのため、他のテクニカルインジケータと組み合わせる必要があります。

## Chapter3

# オシレーター

ボリンジャーバンドの判定精度を高めるために、3つのインジケータを組み合わせます。これらはオシレーターともいわれます。

ボリンジャーバンド

RSI

ストキャスティクス

移動平均乖離率

オシレーターとは、株価の高値圏、安値圏、また買われすぎ、売られすぎを判断するためのインジケーターです。

各3つのインジケーターは、それぞれ特徴があります。

異なるオシレーターを組み合わせることで、互いの弱点を補完して、判定の精度が高くなります。

**RSI**

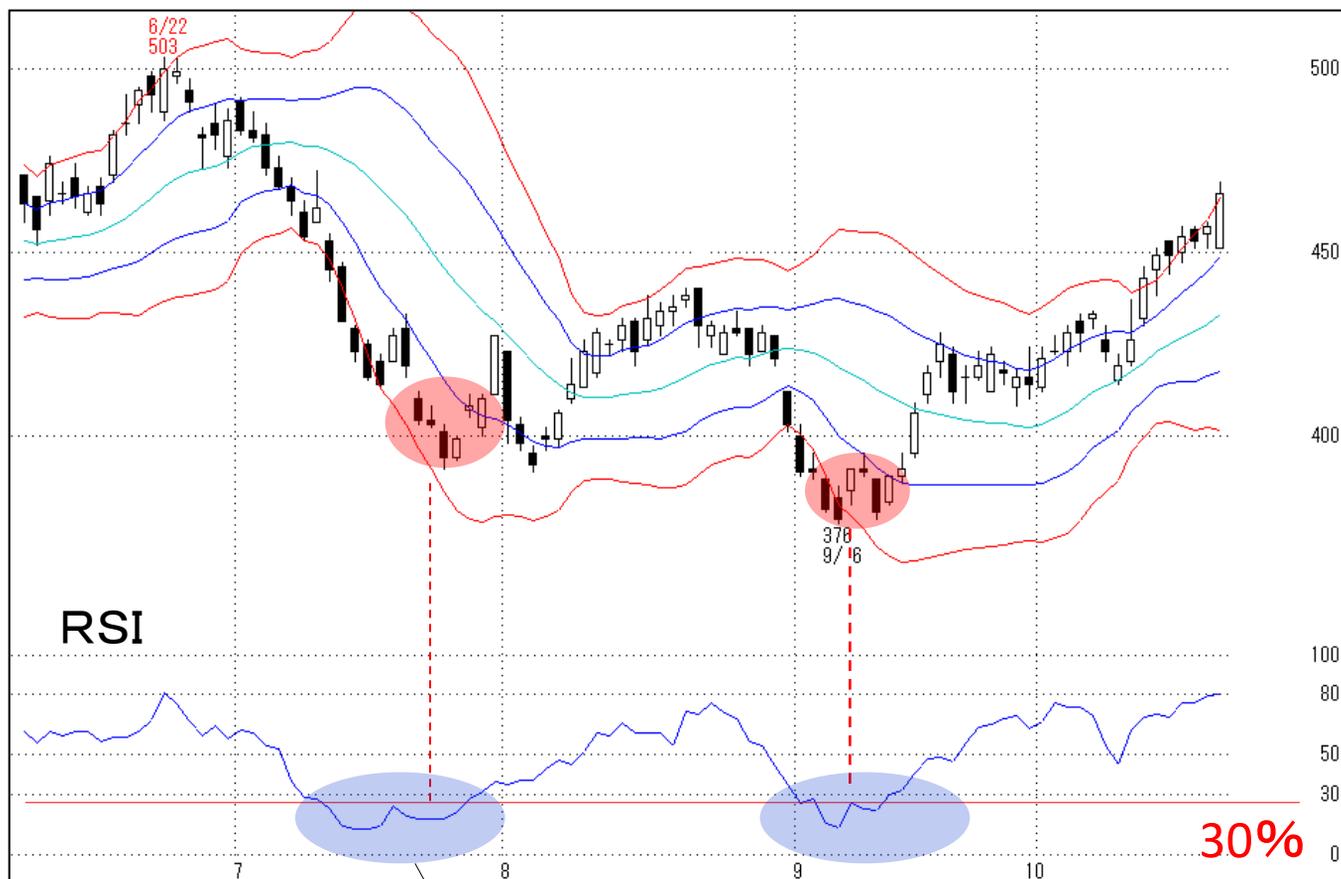
RSIとは株価が動いた**値幅**から、売られすぎを判断するインジケータです。パラメーターは一般的な14日を使います。

例えば、株価が100円から110円になれば上昇幅は10円です。110円から107円に下落すれば下落幅は3円です。この上昇と下降の値幅をもとに算出されています。

※計算式は巻末にございますので、ご興味のある方は御覧ください。

RSIは0から100%で表されます。  
30%以下になると、売られすぎの状態と判断します。

5002 昭和シェル



30%以下で売られすぎ

ボリンジャーバンドと合わせてみると、  
より底値が明確になります。

リバウンド投資法では、株価が $-2\sigma$   
の近くにあり、RSIが**30%以下**になる  
局面を狙います。

5002 昭和シェル



しかしながらRSIにも欠点があります。

株価が下落していても、その下落の値幅が縮まってくると、RSIが上昇してしまうことです。

これは底打ちを示すダイバージェンスといわれる現象ですが、ピンポイントでの反発を狙うリバウンド投資法では、これが欠点となる場合があります。

ストキャスティクス

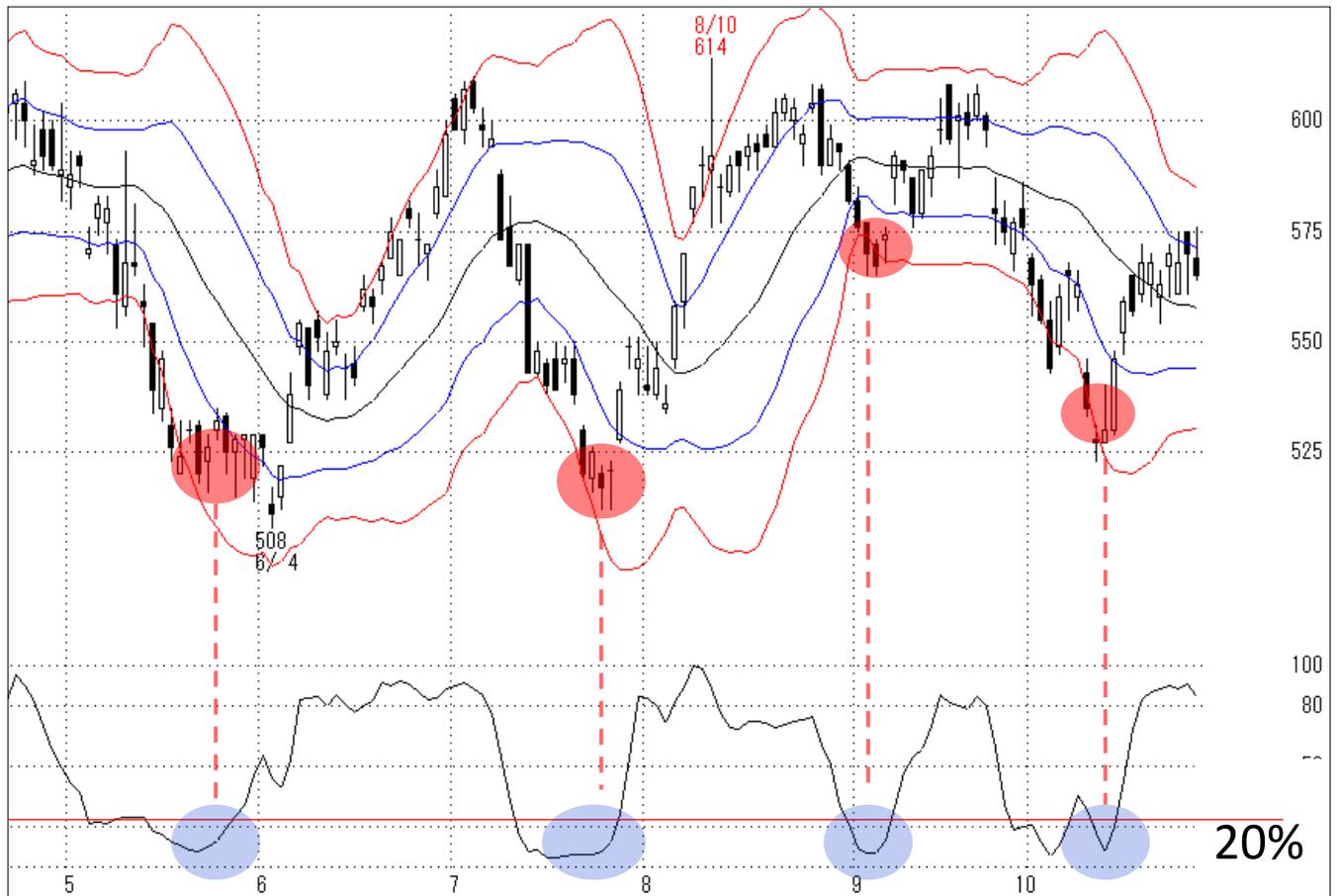
ストキャスティクスは過去の株価の**高低差**から、現在の株価が高値圏なのか安値圏なのかがわかるインジケーターです。

設定された日数の最も高い株価が100%、最も安い株価が0%とイメージされるとわかりやすいです。

またストキャスティクスにはファーストとスローの2種類があり、株価の動きに対する反応によって使い分けることができます。

リバウンド投資法では動きが滑らかなスロー(%D)を使います。パラメータは10日としています。**20%以下**が安値圏にあると判断します。

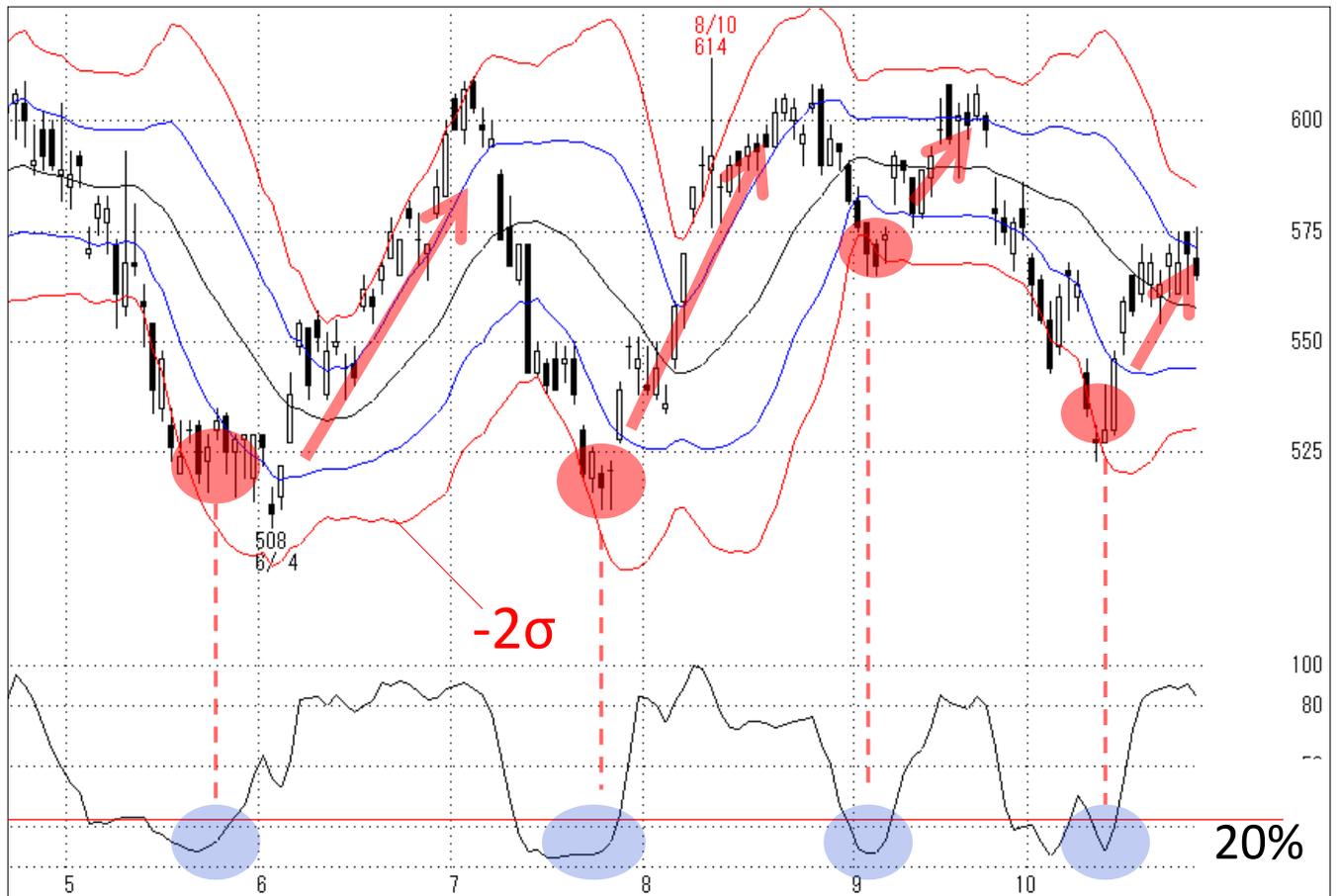
5101 横浜ゴム



ストキャスティクス(%D)

リバウンド投資法では、株価がボリンジャーバンドの $-2\sigma$ 近辺にあり、ストキャスティクスが**20%以下**になる局面が狙いどころです。

5101 横浜ゴム



ストキャスティクス(%D)

ストキャスティクスの欠点は、株価の動きに対して、大きく上下しやすいということです。

株価の高低差に幅がなくても、ストキャスティクスは上下に動きます。

そのため株価が揉みあい状態であっても、底値の水準を示すことがあります。

※計算式は巻末にございますので、ご興味のある方は御覧ください。

# 移動平均乖離率

最後に移動平均乖離率(いどうへいきんかいりりつ)です。

これは株価の平均価格から、現在の株価が何%高いのか、または安いのか分かるインジケータです。

一定期間の**平均価格**から何%割安になっているかがわかるので大変有効なインジケータです。

※計算式は巻末にございますので、ご興味のある方は御覧ください。

移動平均乖離率の売られすぎの目安は-5%以下です。期間は一般的によく使われる25日とします。リバウンド投資法では、ボリンジャーバンドの-2σ近くにある銘柄を狙います。

4901 富士フィルム



移動平均乖離率の欠点は、銘柄によって、反発する乖離の値が異なるということです。

-5%以下であれば、少なくとも平均価格から見れば割安ですが、銘柄によっては-10%以下まで下落する場合があります。

しかし、他のオシレーターでは判別できない平均価格からの割安がわかるため、フィルターとして使うことで効果が発揮されます。

## Chapter 4

# 組み合わせ

これまで見てきた4つのテクニカルインジケータは、単体で使っても効果が発揮できません。

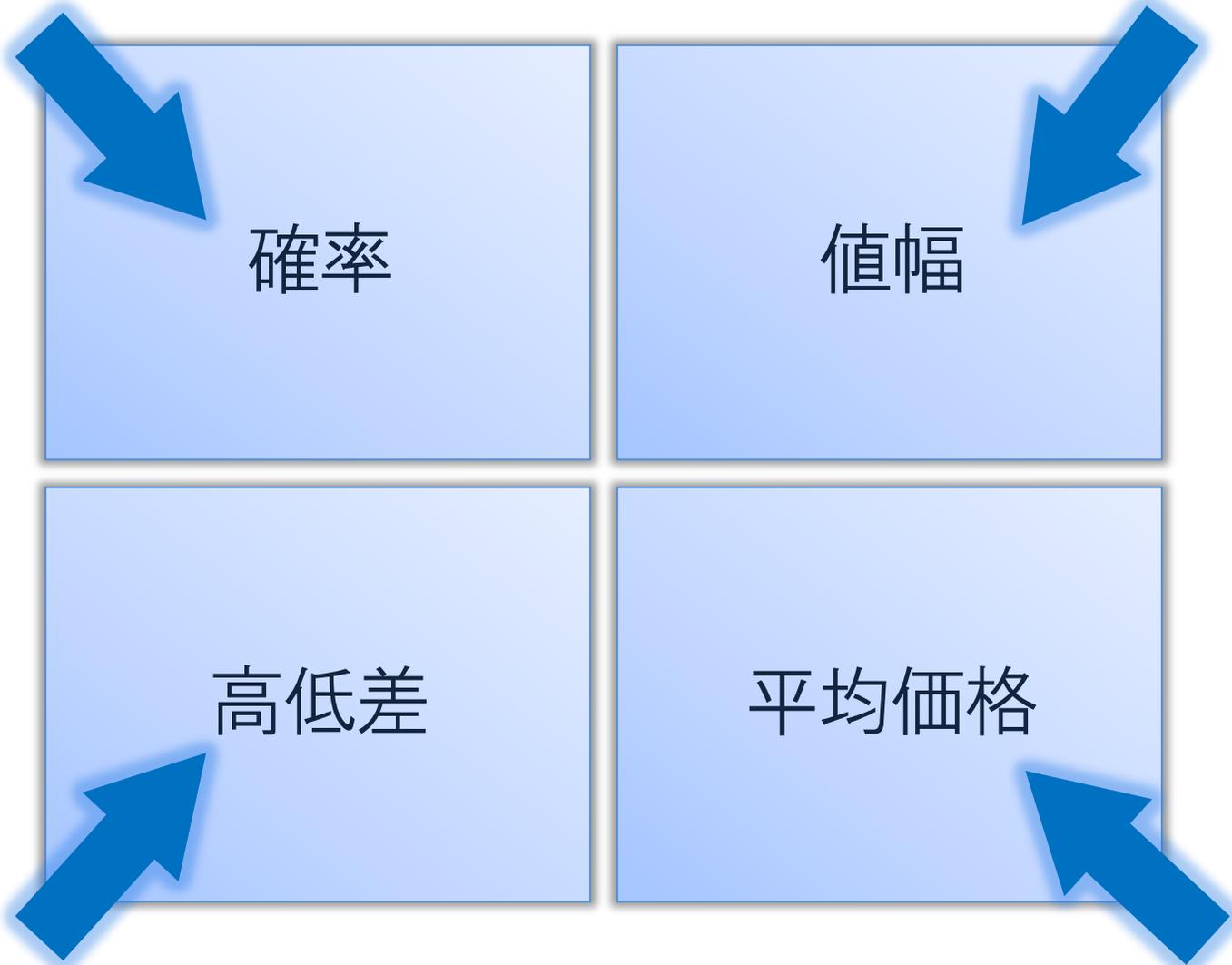
ボリンジャーバンド

RSI

ストキャスティクス

移動平均乖離率

4つを総合することで、異なる視点での底値が判断できるようになります。



確率

値幅

高低差

平均価格

つまり、4つのインジケーターがすべて底値圏を示していれば、最もリバウンドしやすい状態であり、精度が高いタイミングを狙うことができます。

ボリンジャーバンド  
-2 $\sigma$

RSI  
30%以下

ストキャスティクス  
20%以下

移動平均乖離率  
-5%以下

チャートで4つが底値を示していることを確認して、株価がリバウンドする状態にあるかを判断します。

## 2 デンソー



売られ過ぎた状態にある株価は  
いつか反発します。あとはエント  
リーのタイミングを取るだけです。

もっとも大切なことは、底値の水  
準にある銘柄を日々チェックして、  
リバウンドのチャンスを逃さないこ  
とです。

しかし、底値だからといってすぐに  
エントリーしていいわけではありま  
せん。

リバウンド投資法では、底値の判  
定からエントリーする際に、大切な  
ポイントがあります。

## Chapter 5

# エントリー & エグジット

エントリーする前の大切なポイントをお伝えします。

それは**監視**するということです。

底値圏にある銘柄は、すぐに反発する場合もあれば、底値水準のまま、何日も株価の下落が続く場合もあります。

そこで、4つのテクニカルインジケーターによって底値圏の判定をしたら、日々の株価とローソク足の形をチェックしながら、じっと待ち構えて下さい。

そして、**リバウンドの前兆**が確認できた日にエントリーします。

株価がリバウンドするときは、必ず  
合図があります。

今日の株価は、昨日より安かった。  
次の日も昨日よりも安かった...この  
ような状態ではリバウンドしたいえ  
ません。

反発の確認ができて、はじめてリバ  
ウンドしたことがわかります。

つまり、株価が上昇した初日にエン  
トリーすればよいのです。

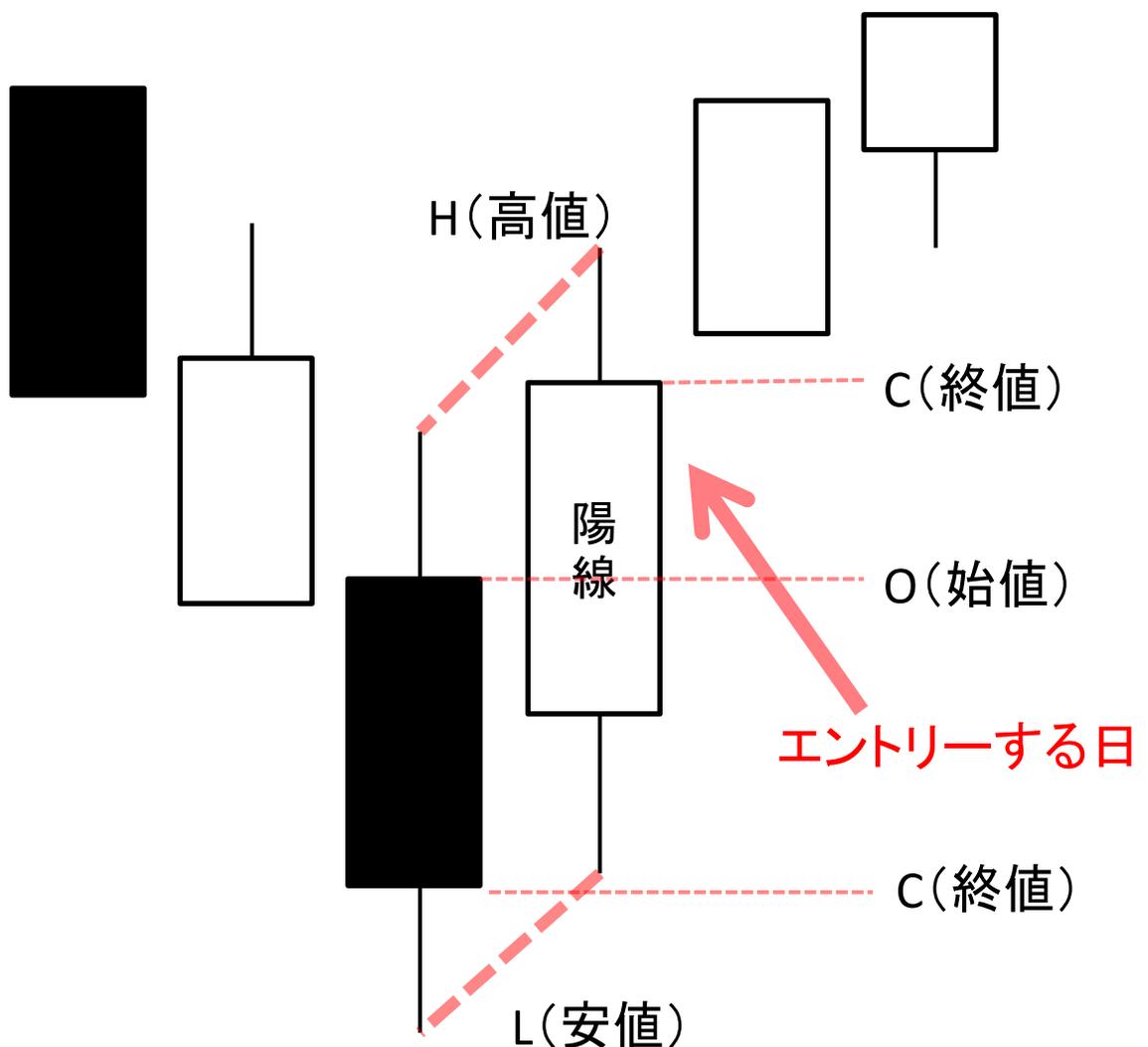
リバウンドした初日にエントリーするにはローソク足の形に着目します。

ローソク足は1日の株価の強弱を示してくれています。それを読み取って決まったサインがでたらエントリーします。

これを**エントリーサイン**といいます。それでは基本パターンを見てみましょう。

# エントリーサインの基本パターン

前日の高値安値よりも今日の高値安値が高い。今日の終値は昨日の始値終値のどちらよりも高い。なおかつローソク足が陽線。これが反発の条件です。

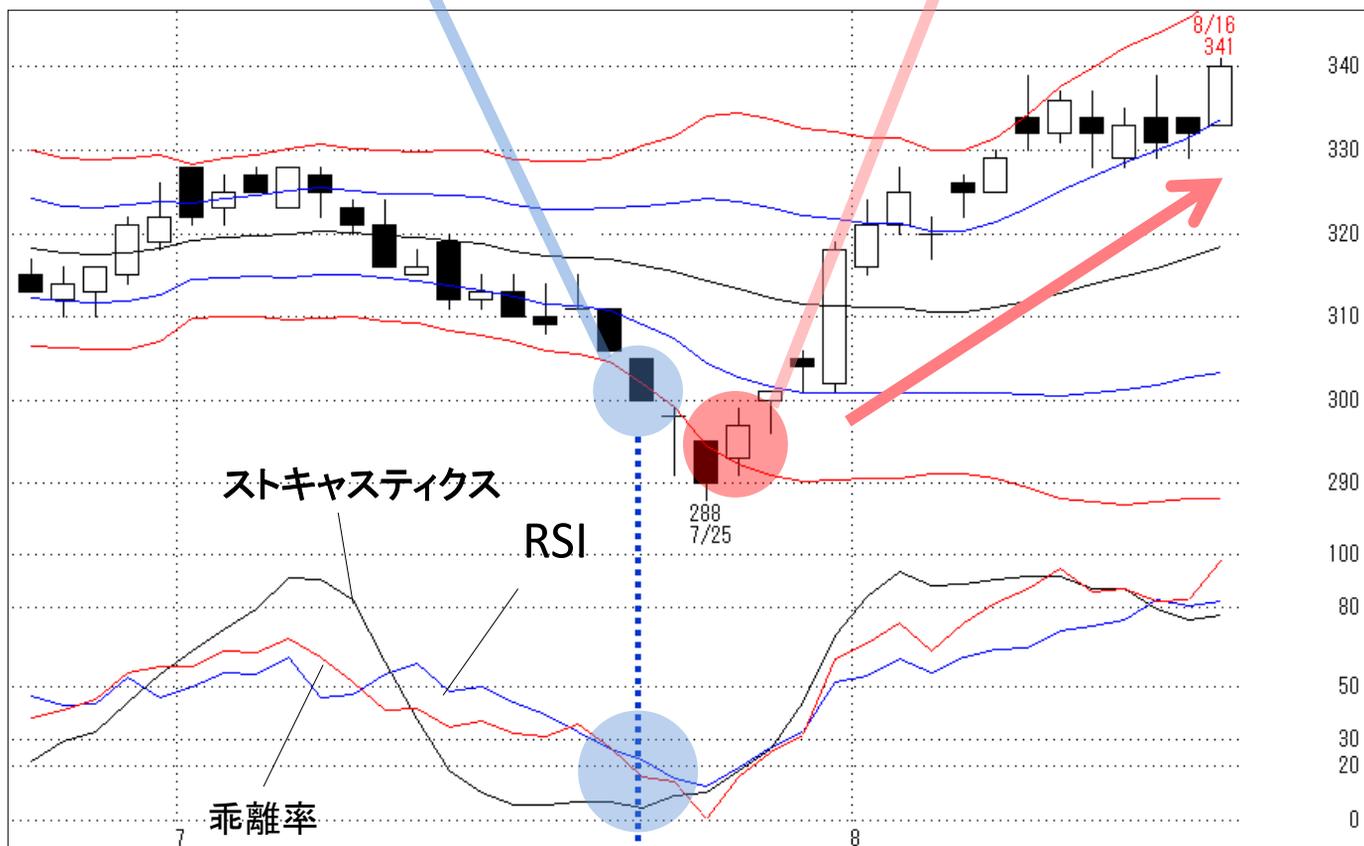


# エントリーサインはリバウンドした初日がわかります。

インジケーターが底値水準となり監視する

ここでエントリーサイン出現

7011 三菱重工

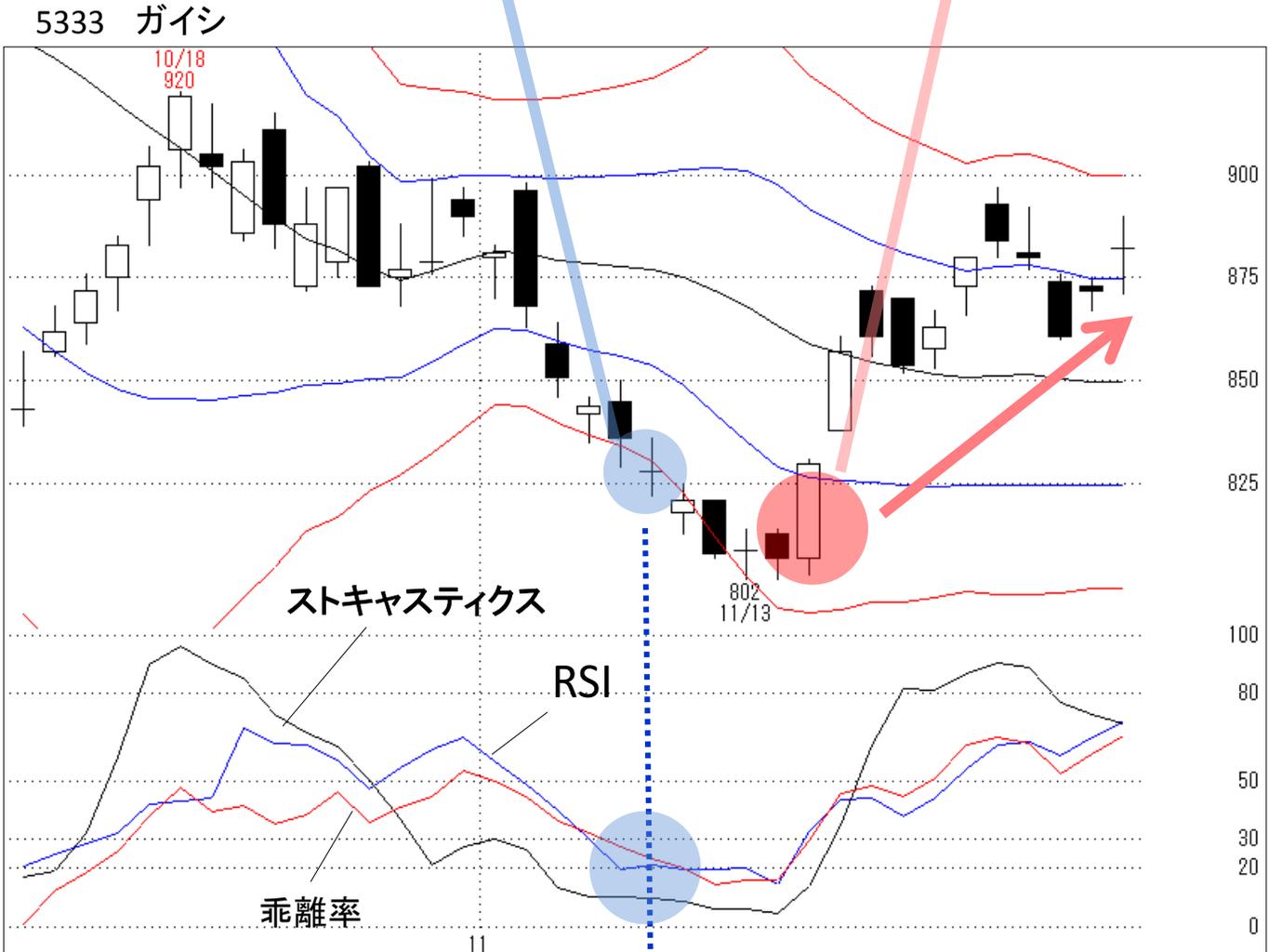


RSI 22.85%  
ストキャスティクス 4.55%  
乖離率 -5.22%

別の銘柄でも見てみましょう。底値の判定ができれば、エントリーサインまで待ち構えます。

インジケータが底値水準となるが監視する

エントリーサイン出現



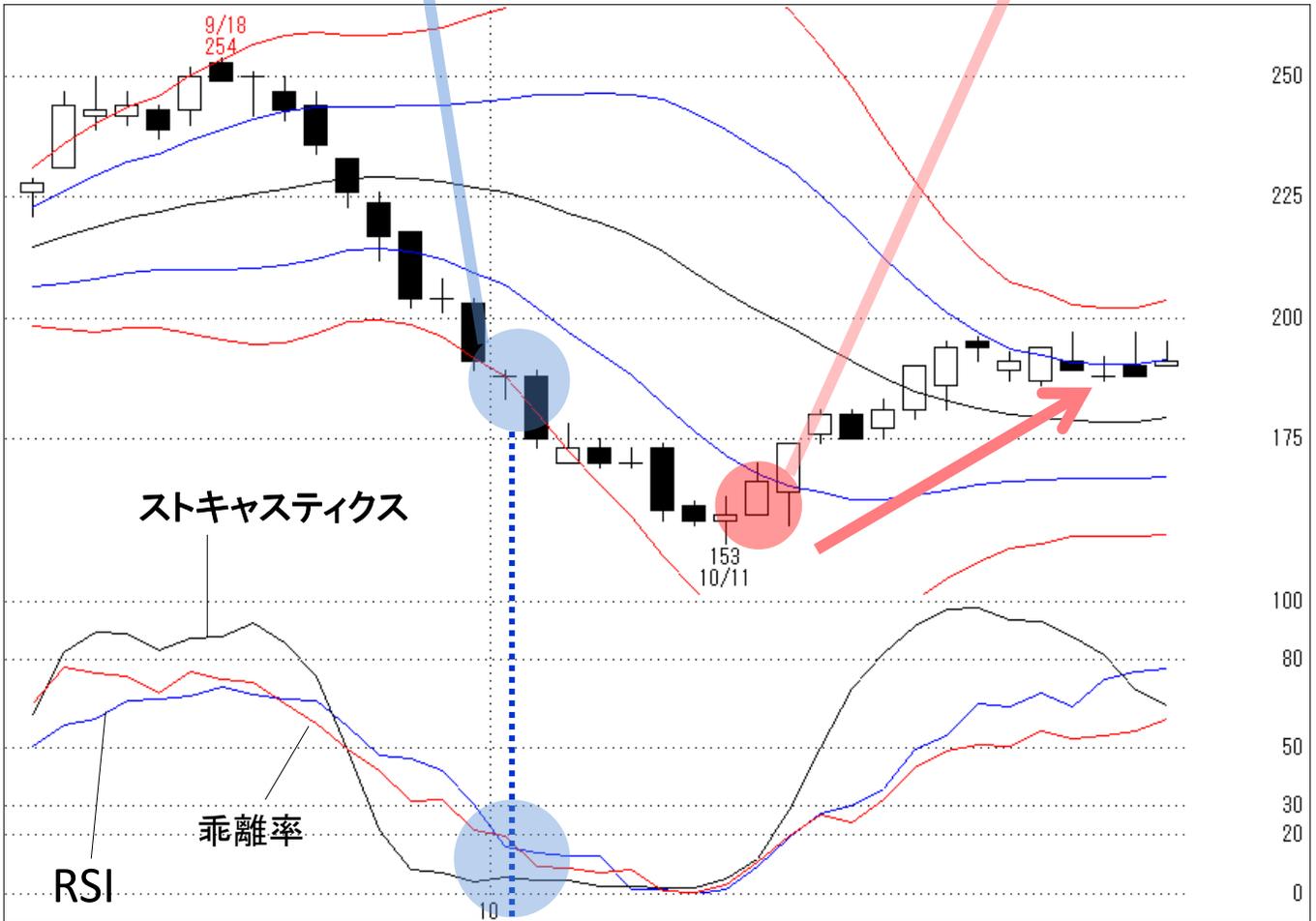
RSI 21.09%  
ストキャスティクス 9.87%  
乖離率 -5.27%

# エントリーサインは慣れると簡単に判別できます。

インジケーターが底値水準となるが監視する

エントリーサイン出現

6773 パイオニア



RSI 15.85%  
ストキャスティクス 5.29%  
乖離率 -15.83%

今回ご紹介したエントリーサイン以外にも多くのパターンがあります。

大切なことは、ダウントレンドからリバウンドし、反発した初日をローソク足から読み取ることです。

過去のチャートを観察して、どのようなサインでリバウンドしているのか、研究してみるのもよいでしょう。

自分だけのサインを見つけるのもリバウンド投資の醍醐味です。

次にエグジット(手仕舞い)の方法です。

一般的にエグジットは一律で決めてしまう方法と、テクニカルのポイントで決める方法があります。

ここでは4つのインジケータの中でも、ボリンジャーバンドとストキャステイクスを使ったエグジットの方法を見ていきましょう。

次のテクニカル条件でエグジットの判断をします。

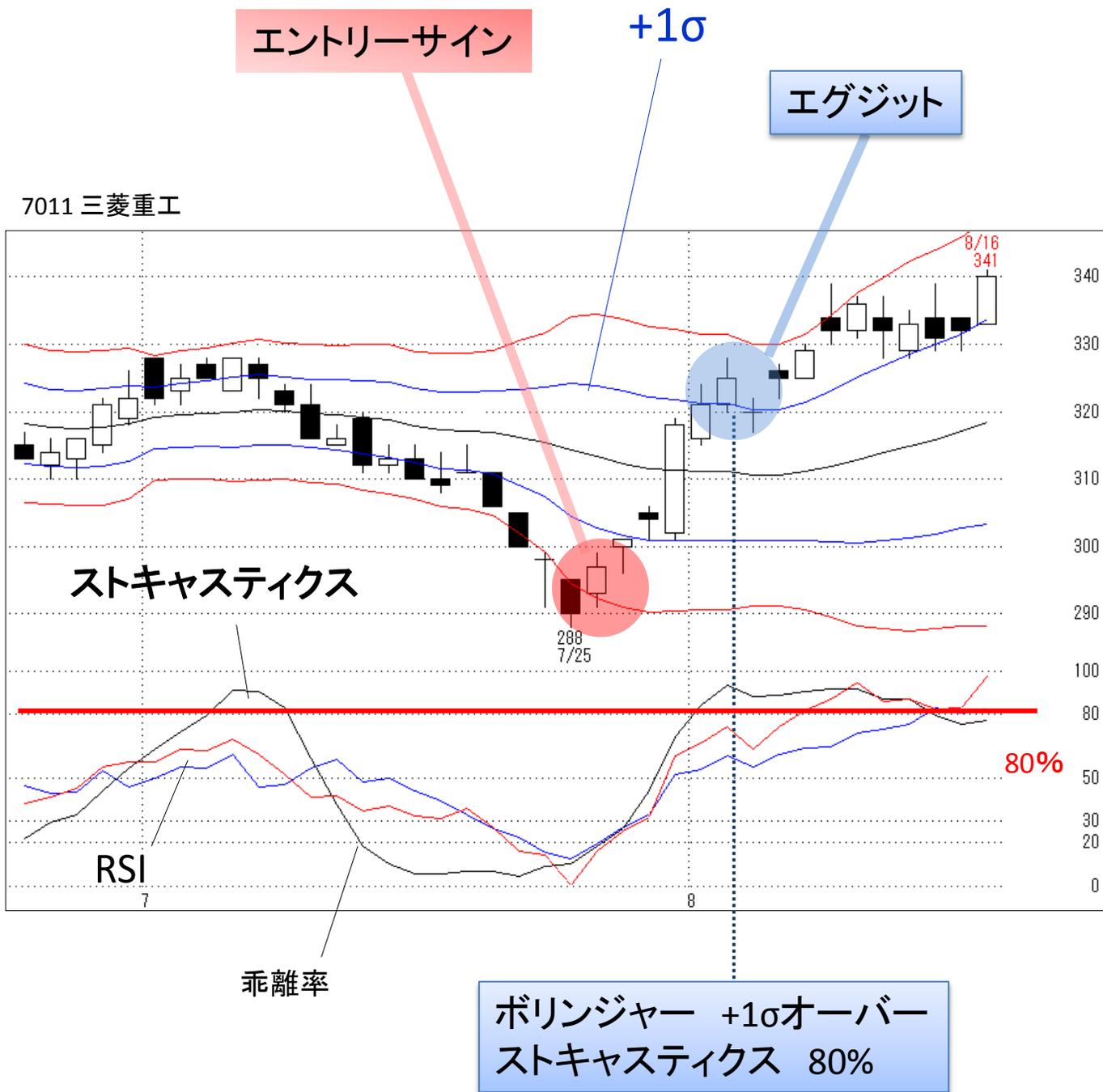
次のどちらかで利益確定する

株価がボリンジャーバンドの  
**+1 $\sigma$ を超える**

ストキャスティクスが**80%を超える**

このどちらかを達成した時点でエグジットです。インジケータが高値圏を示したらエグジットの合図です。

それではチャートで見てみましょう。  
エントリーサインから5日目でエグジットの条件となりました。



エグジットで大切なことは、高すぎないターゲットを設定しておき、また到達したら確実にエグジットすることです。

天井で売ろうとしてはいけません。エグジットした後に、株価がそのまま上昇していく場面もありますが、  
気に留めないことが大切です。

感情が入ることで、不必要なポジションを取ってしまう原因ともなります。

株価がリバウンドし、その次の天井も見極めるのは偶然でない限り、不可能だと思って下さい。

そのため、狙った銘柄で一定の利益確保できれば、別のリバウンドする銘柄へシフトした方が遥かに資金効率が良いのです。

リバウンド投資法は、何よりも利益の確保が最優先ということを忘れないで下さい。

## Chapter 6

# ストップロス

リバウンド投資法も、エントリー後に必ず株価が上昇するとは限りません。

そのため株価が、どの程度まで下落したら損切りするといった、ストップロスを必ず行わなければいけません。

それではストップロスの価格の決め方を見ていきましょう。

株価のトレンドとは、ダウントレンドの時は安値を切り下げ、アップトレンドの時は高値を切り上げます。

このことから、株価がリバウンドするはずが下落してしまい、万が一直前の安値より安くなった場合、ダウントレンドに再び転換した可能性があります。

そのためストップロスは、直前の安値に設定しておくこと、損失を最小限に抑えることができます。

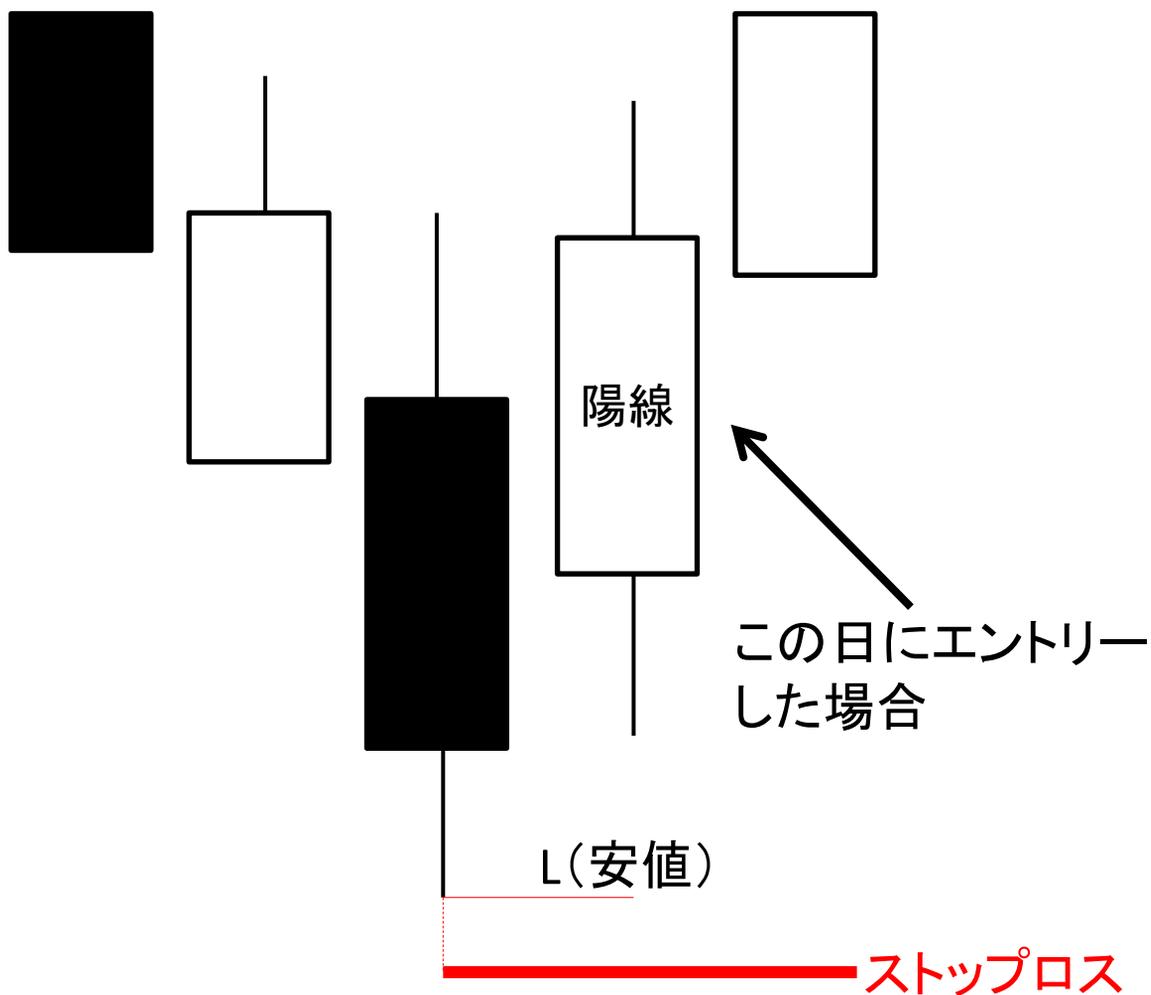
ストップロスは次のルールで設定  
します。

## ストップロスの決め方

**直前安値を2円下回ったら損切り**

1円でなく2円としているのは、下落  
すると見せかけてから上昇する  
「フェイク」に引っかかるのを防ぐた  
めです。

実際のローソク足では、次のようにストップ  
プロスを決めます。



安値の2円下にストップロス

チャートで見てみましょう。エントリー後に一時的に下落したが、ストップロスが発動せずに上昇したパターンです。

エントリーサイン

5002 昭和シェル



ストップロスを374円に設定

もう一つ見てみましょう。エントリー後にストップロスまで株価が下落し、エグジットしたパターンです。その後の株価が下落しており、損失の拡大を防ぐことができました。



1回のトレードの最大損失を限定させるということは、リスク管理の最も重要な部分です。そのため必ずストップロスを行うようにして下さい。

損失を確定するのは、メンタル的には困難な作業なのですが、トレードを続けるための必要経費と考えましょう。

# Chapter 7

# 最後に

リバウンド投資法のブックレットを、最後までご覧いただきありがとうございました。

マーケットでは個人投資家の9割が負けているともいわれています。

昨今の膨大な情報に溢れ、トレードの方向を見失ってしまう個人投資家が、あまりに多いと感じていました。

そこで具体的であり、実践で使えるリバウンド投資のテクニックを公開いたしました。

使っているインジケーターも非常にポピュラーなものですが、それによって有効性が薄れるわけではありません。

また、このブックレットで解説したリバウンド投資のテクニックは、理解しやすくするため重要な部分だけを厳選しております。

そのため、ご自身の実際のトレードに合わせて、アレンジしながらリバウンド投資のテクニックを深めていただければ幸いです。

# リバウンダー会員のご案内

リバウンダー会員にご登録いただくと、ボリンジャーバンド、RSI、ストキャスティクス、移動平均乖離率の4つが底値圏にある銘柄を抽出したウォッチリストをご覧いただくことができます。

ウォッチリストは底値の割安銘柄を一瞬で見つけることができます。また毎日最新のリバウンド銘柄を公開していますのでチャンスを見逃すことはありません。

またブックレットではご説明しきれなかった実践的なテクニックやお役立ち情報もご覧いただけます。リバウンド投資法を効率よく実践したい方に最適です。

リバウンダー会員の詳細は  
「リバウンド投資専門サイト リバウンダー」  
を御覧ください。

■リバウンド投資専門サイト リバウンダー

<http://rebounder.jp/>

# リバウンド投資法のまとめ

リバウンド投資法は、4つのテクニカルインジケーターを総合判断して精度を高めます。

以下の条件を満たして、底値と判定しリバウンドのタイミングを待ちます。

ボリンジャーバンド  
**-2 $\sigma$**

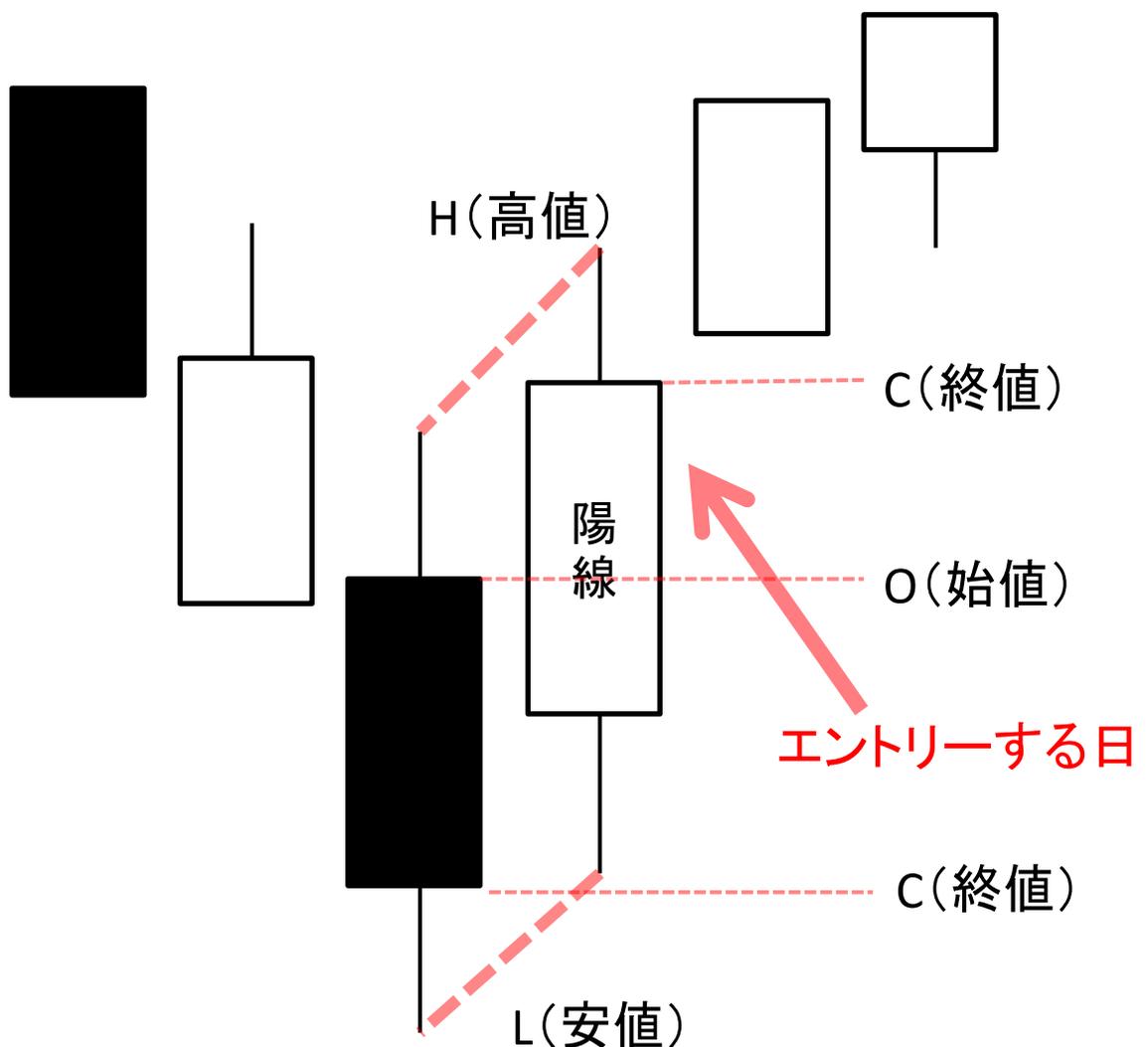
RSI  
**30%以下**

ストキャスティクス  
**20%以下**

移動平均乖離率  
**-5%以下**

# エントリーサインの基本パターン

前日の高値安値よりも今日の高値安値が高い。今日の終値は昨日の始値終値のどちらよりも高い。なおかつローソク足が陽線。これが反発の条件です。



## 利益確定とストップロスのポイント

次のどちらかで利益確定する

株価がボリンジャーバンドの  
**+1 $\sigma$ を超える**

ストキャスティクスが**80%を超える**

ストップロスの決め方

**直前安値を2円下回ったら損切り**

# 巻末付録

## テクニカルインジケーターの算出方法と解説

### ボリンジャーバンド

ボリンジャーバンドにはエクспанションといわれるアッパーバンドのブレイクでエントリーする方法と、平均回帰を利用したロウアーバンドでエントリーする方法の2つがあります。

リバウンド投資法では底値を判断するため $-2\sigma$ などのロウアーバンドでエントリーし標準偏差に基づく平均回帰性を利用します。

またボリンジャーバンドの特徴はバンドの幅によってボラティリティが判断できる点があげられます。底値からの反発を狙うリバウンド投資法では、バンドの幅が過去と比較し広がっている状態であるのが望ましいといえるでしょう。

# RSI

RSIは株価が動いた値幅によって算出されるインジケータです。株価の上昇と下降の値幅を合計し、その内で上昇の値幅がどの程度の割合があるのかを表しています。

$$\text{RSI} = \frac{\text{N日間の値上がり幅の合計}}{\text{N日間の値上がり幅の合計} + \text{N日間の値下がり幅の合計}} \times 100(\%)$$

RSIの特徴は株価が動いた幅のみで計算されていることです。株価の価格水準に関係なく、設定期間内の値上がりの幅が小さくなればRSIの値は下がります。買いと売りの圧力の強弱が判断できるインジケータともいえます。

## ストキャスティクス

ストキャスティクスは設定期間での高値を100%、安値を0%とし、現在の株価がどの程度の株価水準にあるのかを判断するインジケータです。

ストキャスティクスには%K、%D、SLOW%Dの3種類あります。計算式は次のとおりです。

$$\%K = \frac{(C - L_{10})}{(H_{10} - L_{10})} \times 100(\%)$$

H10 = 過去10日間の最高値  
L10 = 過去10日間の最安値

$$\%D = \frac{\text{直近3日間の}(C - L_{10})\text{の合計}}{\text{直近3日間の}(H_{10} - L_{10})\text{の合計}} \times 100(\%)$$

$$\text{SLOW}\%D = \frac{\text{直近3日間の}\%D\text{の合計}}{3} \times 100(\%)$$

ストキャスティクスは通常2本のラインのクロスでシグナルを判断します。%Kと%Dをファーストストキャスティクス、%DとSLOW%Dを組み合わせるとスローストキャスティクスといいます。

リバウンド投資法では底値の水準を把握するために、ノイズも少なく判断もしやすい%Dのみを使っています。

クロスではなく、%Dの数値のみで底値圏の判断をするのがリバウンド投資法の特徴ともいえます。

## 移動平均乖離率

移動平均線乖離率は株価と移動平均線が何%離れているのかを表したインジケータです。移動平均線は設定された株価の平均価格を繋げたものです。

株価の下落が続き、平均価格から大きく売られた場合、割安感に気づいた投資家の買いが入り反発します。移動平均線から大き離れた株価は、再び移動平均線に近づく動きをします。これを平均回帰性といいます。

$$\text{移動平均線乖離率} = \frac{\text{現在の株価} - \text{設定期間の移動平均値}}{\text{設定期間の移動平均値}} \times 100(\%)$$

# 免責事項

当アプリは株式会社ラグナリサーチが運営しております。ご利用にあたりまして、お客様にご了承いただきたいことをご説明いたします。

・当アプリで提供されるデータ(文書・画像等)の著作権は、原則として株式会社ラグナリサーチに帰属します。ご利用に際しては、著作権法上により、当社に無断で転用・複製等を行うことはできません。

・株式会社ラグナリサーチは、このアプリで提供される内容について、いかなる保証をするものではありません。

・記載された内容を利用する場合、利用される人の判断または、それに基づき被った損害については、一切責任は負いません。

・当アプリは情報の提供のみを目的としており、具体的な投資活動を指示するものではありません。投資に関する最終決定はご自身の判断でなさいますようお願いいたします。

・当アプリに基づいた投資活動において、いかなる損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

・掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、何らかの理由により誤りがある可能性があります。

・当アプリ内のコンテンツは、予告なく変更・修正・削除・中断することがあります。

著者・製作 株式会社ラグナリサーチ